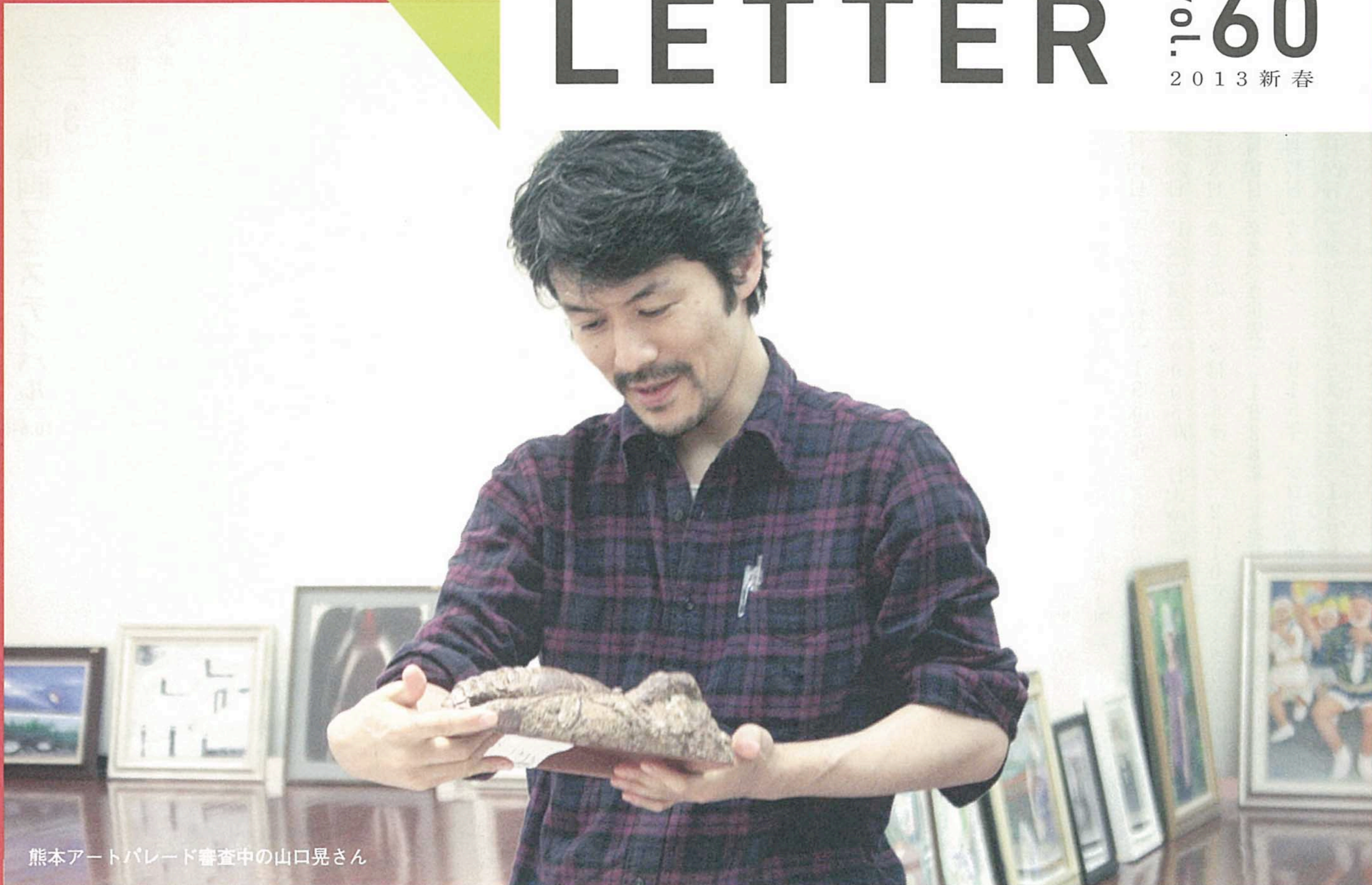


ART KISS
LETTER vol. 60
2013 新春

熊本アートパレード審査中の山口晃さん

巻頭言

熱帯の創造都市国家

一月末から熊本市現代美術館で開催されている「奈良美智展」は、その後シンガポールに巡回することになっている。これは国立シンガポール美術館の要請によるものである。そして今年、交流プロジェクトとしてシンガポール美術館からの東南アジア美術展「Welcome to the Jungle」が、横浜美術館と熊本市現代美術館で開催される。特に熊本市ではこの秋、アジア太平洋都市サミットが開かれ、同じ時期に合わせてこの展覧会企画は実現することになった。

シンガポールは、このところアジア、とりわけ東南アジアとの美術館提携を積極的に進めており、さらに日本との関係も強化したいという姿勢を示している。ほぼ赤道直下のシンガポールは、広さは東京都に等しく、人口五百万余。この国のキー・ワードとなるのは「ハブ」、それは機械用語で車輪の中心を意味し、多岐にわたるネットワークが集中する装置である。例えばシンガポール空港はハブ空港であり、国際航空路線が集まり、ここを中継して多くの便が発っていく拠点空港である。

都市経済学者リチャード・フロリダが二〇一二年に、世界最強経済都市ベストテンの第七位に挙げたこの国は、商業、工業、政治に加えて今や芸術文化、とりわけ現代美術の国際交流に積極的であり、その力の入れようは瞠目に値する。特徴的であるのは国による美術コレクションであり、自国ばかりでなくASEANを中心とした現代作品を、バランス良く均等に集めていること。芸術文化の振興はシンガポール国内に限ることなく、近隣諸国全体を網羅し、交流を深めることにより、この地域全体の文化的、経済的發展を目指しているのである。この都市国家は外に向けて開かれ、新しい思考方法、価値観、動向を受け入れ、それに応えることにより真の創造性を促す、そのような意図が読み取れるのである。

二〇一三年は、奈良美智展とアジア展の交流により、熊本市現代美術館は、アジアに向けて新たな一歩を踏み出す。

熊本市現代美術館館長 桜井武

奈良美智 君や僕に ちょっと似ている
2013年1月26日[土] — 4月14日[日]

<http://www.camk.or.jp>

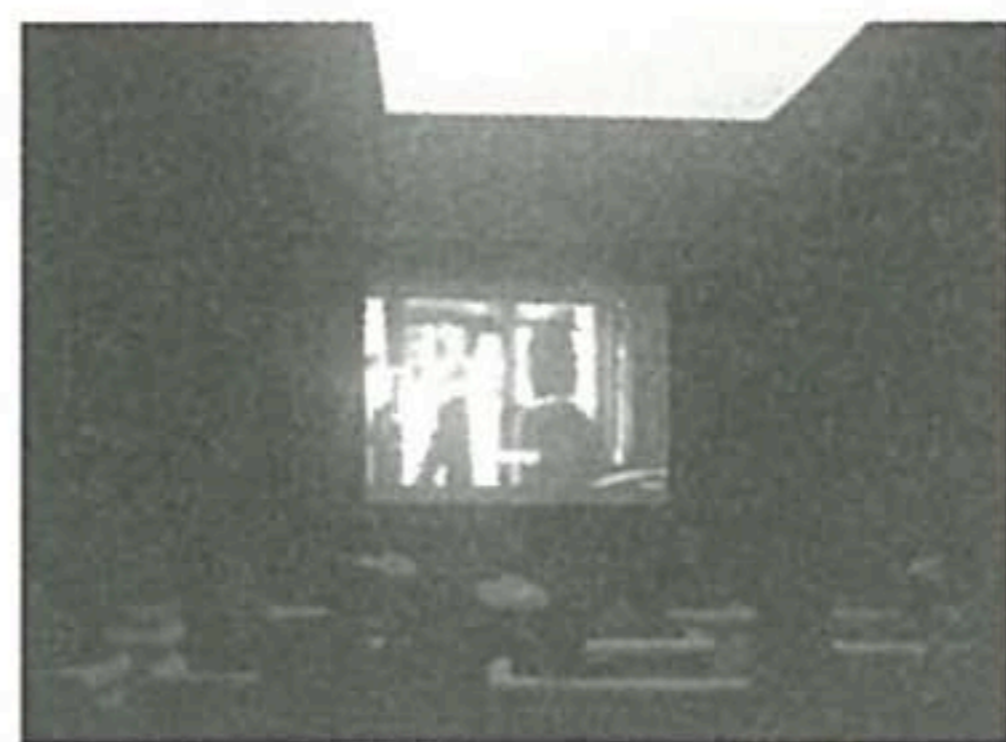
MUSEUM INFORMATION

2012 OCT-DEC

アジア映画フェスティバル vol.3

2012.10.6-8

10/6(土)～8日(月・祝)の3日間、ホームギャラリーにおいて「アジア映画フェスティバル vol.3」を開催しました。上映作品は韓国、中国、台湾映画の6本。各回10名「生きる場所」展の招待券を抽選でプレゼントさせていただきました！



このフェスティバルをきっかけに美術館を知っていただいた方も多くいらしたようです。(E・Z)

【参加人数345人】

月曜ロードショー上映報告

毎週月曜日14時・18時より 無料

上映リスト(9/3～12/10)

- 9月3日「キッド」1921年 アメリカ映画 56分
- 9月10日「水の中の八月」1995年 日本映画 117分*日本語字幕付き
- 9月17日「ミルドレッド」1996年 アメリカ映画 105分
- 9月24日「ボトル・ドリーム」2008年 アメリカ映画 109分
- 10月1日「お気に召すまま」1936年 イギリス映画 97分
- 10月8日「アジア映画フェスティバルvol.3開催のためお休み」
- 10月15日「ぼくたちと駐在さんの700日戦争」2008年 日本映画 110分*日本語字幕付き
- 10月22日「アナとオットー」1998年 スペイン映画 104分
- 10月29日「穏やかな暮らし」2010年 イタリア、ドイツ、フランス映画 100分
- 11月5日「ストレンジャー」1946年 アメリカ映画 91分
- 11月12日「小便小僧の恋物語」1995年 ベルギー映画 90分
- 11月19日「キッスで殺せ」1955年 アメリカ映画 106分
- 11月26日「17歳の風景」2005年 日本映画 90分 *日本語字幕付き
- 12月3日「あしたの Pasta はアルデンテ」2010年 イタリア映画 113分
- 12月10日「来るべき世界」1936年 イギリス映画 89分
- 12月17日「カルメン」1915年 アメリカ映画 75分
- 12月24日「アボンリーのクリスマス」1998年 カナダ映画 92分

第8回城下町くまもと銀杏祭

2012.10.6-7
(お手伝い10.4)

上通商栄会編

第8回城下町くまもと銀杏祭が開催されました。当館が位置する上通りの商店街の皆さまのご厚意で、現代美術館開館10周年をお祝いするスペースを設けていただきました。「ハッピー10thアニバーサリー 現代美術館ヒストリーポスター展 示」というパネル



作っていただき、スタッフ一同、感激と感謝の気持ちでいっぱいになりました！これまで開催してきた10年分のポスターをずらりと並べたところ、街行く方々が気軽に質問や感想をお話くださり、楽しい時間を過ごすことができました。これからは街の皆さんと一緒に歩いていく美術館でありたいと強く思いました。(A・A)

サンロード新市街編

新市街では、開催中の展覧会「生きる場所 ボーダーレスの空へ」の出品作家、栗林隆さんの「yatani」を登場させ、ポスターやイベントチラシの無料配布を行いました。熊本オリジナルの肥後てぬぐいや風船で賑やかに装飾された「yatani」に、すれ違う方はビックリしながらも興味を持っていただけたようでした。(C・T)



下通繁栄会編

第8回銀杏祭における下通繁栄会の主催イベント「マチナカもみじアート」に、当館ボランティア CAMKEESの皆さんと下準備のお手伝いをしました。下通



MUSEUM INFORMATION

ミュージック・ウエーブ

展覧会や季節にあわせた
コンサートを開催しています

STREET ART PLEX KUMAMOTO 協働事業 1' Great Composer Memorial Series フレデリック・ショパン

2012.10.13

偉大な作曲家の命日を記念したグレートコンポーザーシリーズ。10月は、ショパンのメモリアルコンサートをホームギャラリーで開催しました。出演者には、ショパンを愛する方たちと、ゲストにピアノストの大羽洋子さんをお迎えし、『ワルツ Op 64 Nr 2』、『幻想即興曲』、『ノクターン 第2番 変ホ長調』などの曲目が演奏されました。ショパンへの思いがそれぞれに込められた素敵なコンサートとなりました。(Y・M)

【参加人数50人】



STREET ART PLEX KUMAMOTO 協働事業 2' EXTRAVAGANZA 2012

2012.10.13



ストリートアートプレックスとの協働事業として、この日2本目のイベント、「エクストラヴァガンザ2012」が開催されました。熊本市中心街8か所で開催されたエクストラヴァガンザ。ホームギャラリーでは、『俵英二「Flamenco」』の公演をお届けしました。また、今回は、オープニングアクトにアートプレックスのパレードが中心街を回りながらホームギャラリーに到着し、総勢70名程のパフォーマーの方々がジャンベなどの楽器を持って会場を盛り上げて下さいました！『俵英二「Flamenco」』の演奏がスタートすると、会場の熱気は最高潮に。ギターの生伴奏と迫力の唄と踊りに終始大盛り上がりでした。(Y・M)

【参加人数150人】

詩の朗読会

くまもと詩の朗読の会共催の
自作の詩の朗読会です

テーマ「時代」

第106回
2012.9.27



第106回 詩の朗読会が開催されました。飛び入りの方1名を含めた14名による詩の朗読が行われました。テーマは「時代」、家族の様子から宇宙に広がる星まで、

様々な詩がありました。過去、現在、未来をつないでいく時代。変わりゆく時代の中で変わらないもの。一人一人の想いはさせた時代が、じんわりと伝わってきました。(N・Hi)

テーマ「辰(龍)」

2012.10.25



第107回 詩の朗読会が開催されました。テーマは今年の干支である「辰(龍)」でした。

煙突から出る煙を見て龍を連想した詩や、♪ぼうやく良い子でねんねしなく、と日本昔

話で知られる歌から始まる「龍の子太郎」の朗読が印象的でした。飛び入りの方2名を含む12名の発表でした。(H・T)

テーマ「自由題」

2012.11.22



第108回 詩の朗読会が開催されました。飛び入り3名を含む15名の詩作の発表・朗読がありました。

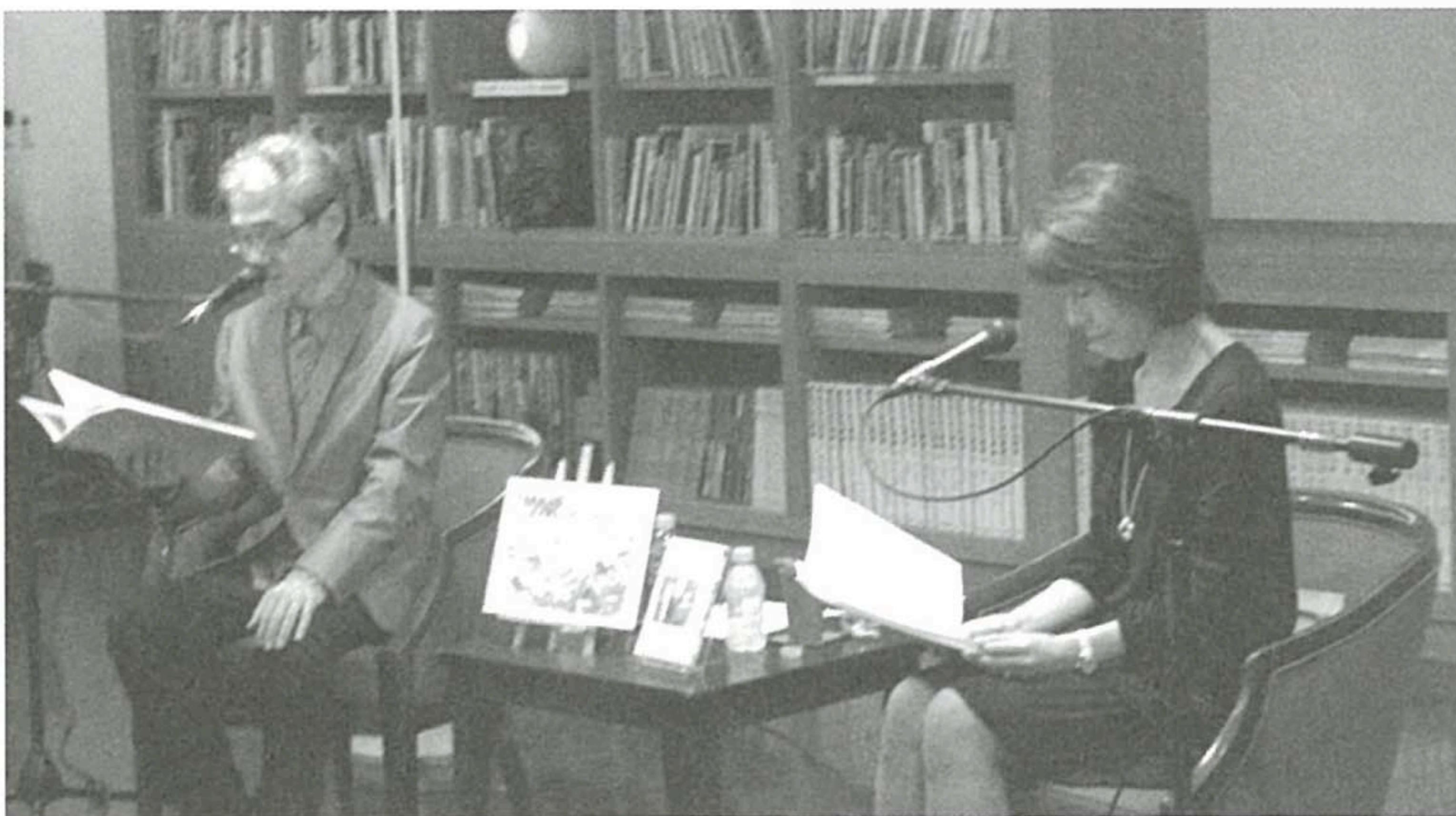
「自由題」でしたが、季節は秋。秋の午後には飲むコーヒーや、コンソメスープの調理手順、秋のものが主題の詩作なども発表されました。また、愛読の少女マンガ作品にある台詞を詩と捉え朗読される方もいました。

今回は3名の方が、当館ボランティアCANKEESのピアノボランティア3名の方とコラボレーションするという初めての試みを行いました。

ピアノボランティアさんには、詩の発表者のリクエストに応じて、詩の朗読に伴奏するかたちで、それぞれシューマン「子供の情景」より「珍しいお話」、ジムノペディ第1番、ロンドンデリーの歌を演奏いただきました。今後の新しい展開を感じさせる会となりました。(H・T)

第18回 お話し玉手箱
LIVE

2012.10.28



RKKアナウンサーの本田史郎さん、福島絵美さんによる朗読会が行われました。これまで、秋から冬の時期では、クリスマス直前に開催することが多かったため、クリスマス関連の作品を紹介してきました。今回は、10月末の開催となり、オー・ヘンリー作「最後のひと葉」と、いせひでこ作「1000の風 1000のチェロ」の2作品を朗読して下さいました。ジャズやチェロのBGMがぴったりで、情景が浮かんでくるような朗読会となりました。(Y・M)

【参加人数65人】

プレママ・ファミリートour

2012.11.10

「生きる場所」展のプレママ&ファミリートourを開催しました。常連さん家族2組とともに、たっぷり1時間かけて鑑賞しました。

照屋勇賢さんの作品《コーナーフォレスト》を見ながら「これはもともと何だろう?」「トイレトペーパーの芯!」などと、ちいさな鑑賞者さんも、身近な素材から生まれたアート作品に、興味しんしんの様子でした。

ニナ・フィッシャー&マロアン・エル・サニ作品《Spelling Distopia》も、作品に探険的要素があるためか、こちらもとても熱心に鑑賞。

塩田千春さんのトランクの作品《行くべき場所、あるべきもの》シリーズは、「何が入っているのかな?」と注意深く鑑賞していました。

ガイド役としても、上質なアート作品を前にすると、世代を超えて気持ちを通じ合わせる事が出来ることを、改めて確認する良い機会となりました。(H・T)

【参加人数5人】

「混浴温泉世界」日帰りバスツアー

2012.11.10

別府で開かれている国際芸術フェスティバル「混浴温泉世界」をめぐるバスツアーを実施しました。別府へ行くのは2009年以来、2回目。総勢44名でお伺いしました。昼食に大分名物とり天をいただいた後、



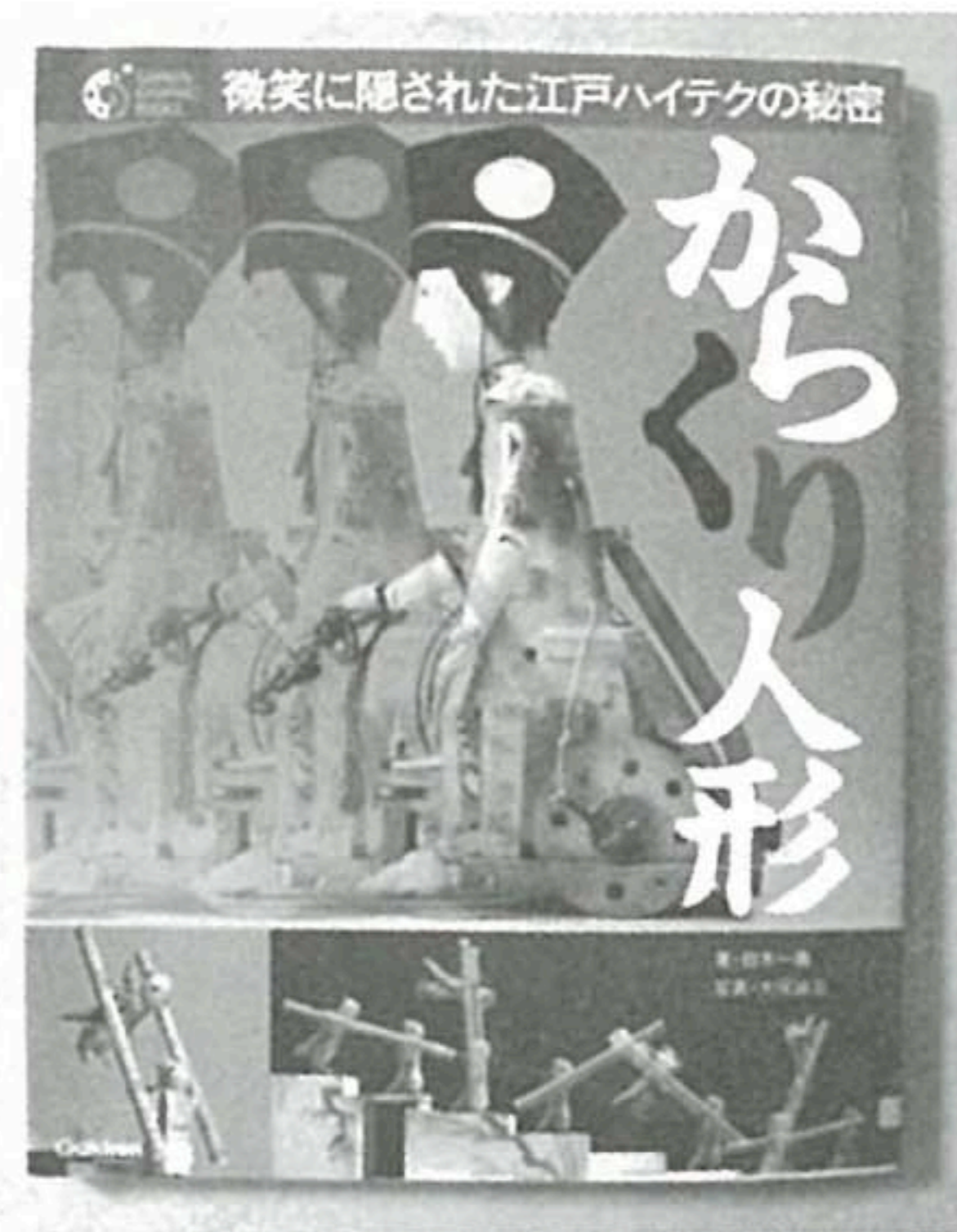
総合ディレクターの芹沢高志さんに丁寧なご案内をいただき、別府の街と同時にアート作品を楽しみます。自由時間は各自「旅手帖 beppu」を手に、温泉やショッピング、アートのスペース探訪など、思い思いの時間を過ごされ、皆様にも満足いただけたようです。アートと温泉文化が、混浴し、盛り上がりを見せている別府にならって、熊本もどんどん元気な街にしていきたいなと感じた1日でした。(A・S)

【参加人数44人】

VOL.14

「からくり人形」

ホームギャラリーからのおすすめの一冊をご紹介します。



著者：鈴木一義 出版：株式会社学芸研究社
1994年

本書は、当館で2004年と2006年に開催された生人形展の際の関連書籍でした。現在九州では、近代工業遺産への注目が高まっていますが、その黎明期であった幕末・明治期に活躍した発明家たちの自由で遊び心あふれるパイオニア精神が、様々な発明品や、からくりや和時計、設計図等の姿をとって現在に伝わっていることが、多くのカラー作品写真を通じて紹介されています。

久留米出身の、「からくり儀衛門」として知られた田中久重(東芝の創始者としても有名)の作品群が多く掲載されているのも魅力です。また全国で活躍した「からくり師」たちが、市民を楽しませ、驚かせるために発明・発信した豊かな想像力によるその成果品が、実際に近代工業発展に大きく寄与したという事実も本書に紹介されています。また、現在のアートと市民の関係について考える機会となる一冊としてもお薦めです。(H・T)

CAMKEESの活動

美術館ボランティア

CAMKEES(キャンキース)による活動紹介

CAMK「読みがたり」第38回
テーマ「どうぶつ」

2012.10.20

今回は体を大きく動かす遊びを取り入れました。色とりどりのシフォンを揺らし、風になったり、お母さんと一緒にかくれんぼをしたり、みんな大はしゃぎでした。ボランティアさん手作りの手袋人形くまモンの登場にも歓声が起こりました。今回ご紹介した絵本はビクブック『たまごのあかちゃん』、『ぼくのくれよん』、『ぞうくんのおおかせさん』の3冊でした。(C・T)

【参加人数26人】



CAMK「読みがたり」第39回
テーマ「秋のおはなし」

2012.11.17



今回は、絵本や手遊び歌のほかに、新聞紙を使ったおはなし「おおきくなったら」などもご紹介しました。「おおきくなったらなんになるよ」という歌に合わせて新聞紙を折ったりちぎったりして、帽子が舟になり最後は洋服に！参加した子どもたちも大きい声で一緒に歌うとてもかわいい姿が見られました。

「どんぐりどんぐり」の手遊び歌では、小さいどんぐりや大きいどんぐりを手で作り、ころころと歌いながら腕を回して楽しみました。(N・H)

【参加人数26人】

CAMK「読みがたり」第40回
テーマ「クリスマス」

2012.12.8

今回のテーマは「クリスマス」。手作りのリースやクリスマスの小物が飾られたり、サンタさんになったボランティアさんが登場したりと賑やかな雰囲気の中はじまり

した。絵本『いないいないばあ』では、ページがめくられるたびに子どもたちの元気な声が続いてきました。「サンタのおまじない」でも、サンタさんと一緒に「いち、に、さんたさーん」とおまじないを唱えながら、たくさんの笑顔が見られました。

【参加人数48人】



CAMKEES研修旅行

2012.10.30

美術館ボランティアCAMKEES(キャンキース)のみなさんと九州国立博物館へ研修旅行に行きました。今回は九州国立博物館のボランティアである環境ボランティアさんとの交流会と開催中の「ベルリン国立美術館展」を鑑賞しました。

職員さんによる全体の活動概要の紹介後、文化財の保存のためのミュージアムIPMについてお話を伺いました。また、

環境ボランティアさんによる手作り紙芝居や、インジケータ作りをはじめ、館内見取図や虫めがねを手に、実際に虫やゴミをチェックする「ウォッチング」体験も行いました。CAMKEESの皆さんからは、ミュージアムIPMがより身近に感じられた、作品や美術館を守ることにつながるということがとてもやりがいがある、との話も伺うことができました。

「ベルリン国立美術館展」では、フェルメールのあたたかい光の描き方に感動し、豊かなベルリン芸術に触れることができました。終始なごやかな雰囲気、CAMKEESの親睦が深まる楽しい1日となりました。(Y・Mu)

【参加人数25人】



「生きる場所」展イベントや
10周年記念イベントが盛りだくさん!



MUSEUM INFORMATION

GI
GII

「生きる場所 ボーダレスの空へ」展アーティスト・トーク

2012.9.29



「生きる場所

ボーダレスの空へ」展が開幕した29日の14時より、出品作家であるワン・ホンカイ(王虹凱)



さん、栗林隆さん、米田知子さんをお迎えしたアーティスト・トークを開催いたしました。ワン・ホンカイさんは、過去の作品制作についてのお話を、熊本で最新作を手掛けた栗林隆さんは、美術館ボラ

ンティアアさんと一緒に作業した際のこぼれ話、米田知子さんは実際に会場に入っ、ご自身の作品の隣でお話を聞かせて下さいました。場所や流れていく時間、人との関わりを通じて、「生きること」を見つめた作品についての興味深いお話が聞かれました。(C・T)

【参加人数60人】

開館10周年記念 Yataiパーティー

2012.10.12

熊本市現代美術館の開館10周年にあたる10月12日に、「生きる場所」出品作家、栗林隆さんの Yatai を使ったパーティーをびぶれす広場で開催しました。

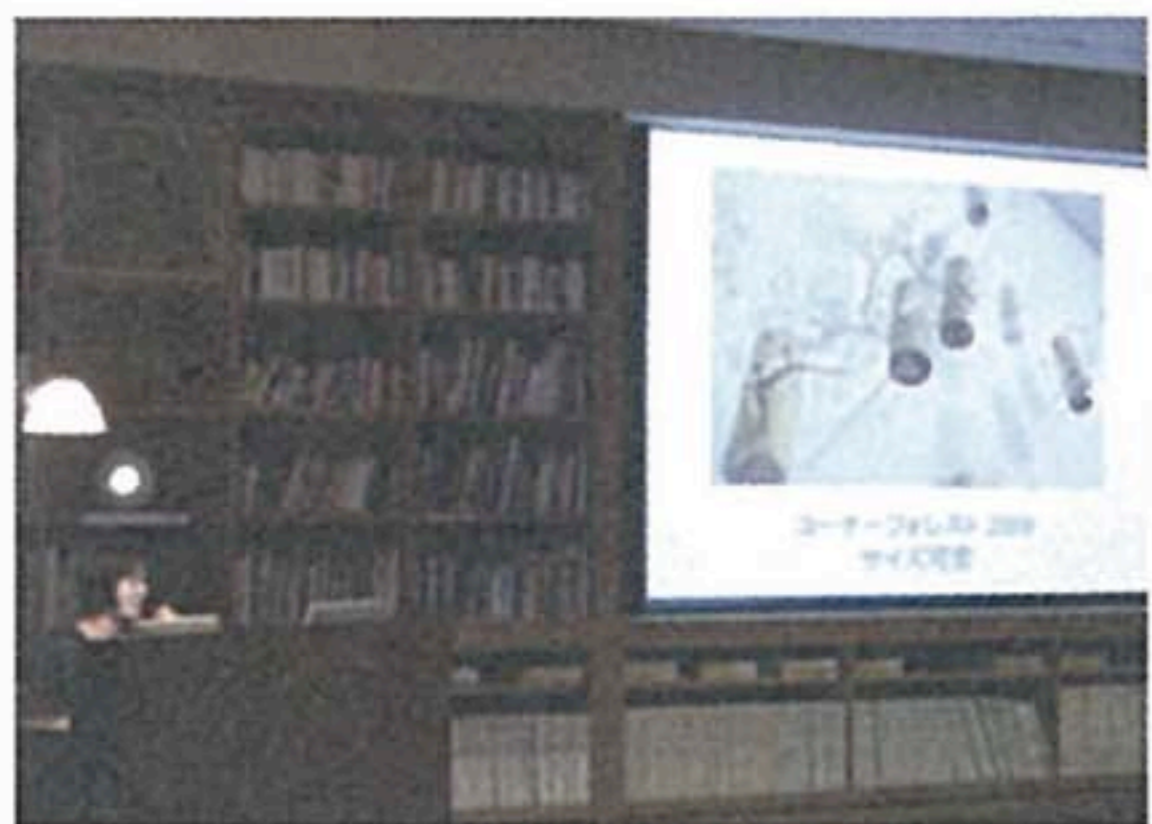


出店して下さった方々による思い思いの装飾が施された Yatai では、かわいい小物やベジ肉まん、消しゴムはんこなどが販売され、街行く老若男女が足を止めて楽しんでくださいました。締めくくりに同じく今年10周年を迎えるストーリーアートプレックスの皆さんによる、素敵な Happy Birthday song が流れ、記念すべき1日となりました。(E・Z)

CAMKレクチャーカレッジ

2012.10.21

「生きる場所 ボーダレスの空へ」展の企画担当学芸員本田代志子が展覧会の概要についてお話ししました。出品作家である米田知子、照屋勇賢、ニナ・フィッシャー&



マロアン・エルサニ、ガオ・シーチャン、ワン・ホンカイ、栗林隆、塩田千春、マリリーナ・アブラモヴィッチは、世界の各地で生活し、それぞれが生きる場所をどのように見つめ、作品に結びつけているのか、その姿勢について紹介しました。(Y・H)

【参加人数40人】

陶芸ワークショップ「わが家の器」

1回目(成形) 2012.10.27
2回目(施釉) 2012.11.18
3回目(お披露目会) 2012.12.01

「生きる場所」展の関連イベントとして、家族を対象とした陶芸ワークショップ「わが家の器」を開催しました。思い出に残る器作りを目標に、形のアイディアスケッチから、粘土の成形、最後の色付けまで、親子や夫婦など、5組のご家族にご参加いただきました。



自分で使うお気に入りのマグカップを目指したり、奥さんの為にピアグラスを作られたり、もうすぐ産まれてくるお子さんと3人で使用できる器を考案したりと、様々な家族のカタチにあったわが家の器が完成しました。(C・T)

【参加人数11人】

シンポジウム「日本一暮らしやすい政令市—文化がちなげのまちづくり。文化創造都市くまもとにむけて」

2012.10.14



熊本市政令市移行・熊本市現代美術館開館10周年を記念したシンポジウムを行いました。

第一部では、企業メセナ協議会専務理事の加藤種男さんの講演「アートは役に立つべきか」を行い、「アートは功利的には何の役に立たないものだからこそ、様々な分野に役立つ」という事例を、豊富なスライドで紹介いただきました。

また、第二部では、アーティストの日比野克彦さん、幸山政史熊本市長、桜井武当館館長も加わった「市民の創造性を生かすまち・くまもとに向けて」と題したパネルディスカッションを実施。加藤さんからは「美術館像を解体していくような気持ちをもって街に開かれていくような活動を行うべき」というご意見、日比野さんは「美術館は街の旅行代理店、ターミナルのような場所であって欲しい」、幸山市長からは「文化が街の中に息づいていくような街づくりを」、桜井館長からは、それらの意見を真摯に受け止め、今後の活動を継続していくというお話が語られました。

会場は終始和やかでアットホームな雰囲気にも包まれ、熊本市現代美術館が熊本の文化や市民生活の中に溶け込み、更に今後の活動を充実させていきたいという思いを再確認した一日でした。(A・S)

【参加人数80人】

G III

ギャラリーⅢ(GⅢ)は、熊本、九州のアーティストを紹介し、応援していくスペースです

GⅢ Vol.86

「九州アート全員集合」
展アーティスト・トーク

2012.9.22

ギャラリーⅢと井手記念室でスタートした「九州アート全員集合」のアーティスト・トークが行われました。40歳以下の九州を拠点として活躍する若手作家に焦点をあてたこの展覧会のコンセプトが語られた後、田中千智(福岡)、VAROC(佐賀)、国本泰英(大分)、しまうちみか(熊本)、宮城壮一郎(宮崎)、宮内裕賀(鹿児島)、儀間朝龍(沖縄)の7組の参加作家が、それぞれの作品にかける思いなどを順に語っていくかたちで行われました。その後、新町の町屋「かね屋」で地域を舞台に上演される演劇の稽古の見学や、地元作家との交流会も行われ、活気ある1日となりました。(A・S)

【参加人数40人】



GⅢ Vol.87

くまもとアートポリス25周年記念展
「最新15の建築力」

2012.11.23-12.24



くまもとアートポリス25周年を記念した展覧会「最新15の建築力」が開催されました。最近竣工した建物や現在設計中のくまもとアートポリス参加プロジェクト等について、パネルや模型、映像で紹介しました。また合わせて「くまもとアートポリスフォトコンテンツ」の優秀作品も階段ギャラリーに展示し楽しんでいただきました。(E・Z)

藤本壮介×曾我部昌史
サロン・トーク

2012.11.23

くまもとアートポリス25周年展覧会「最新15の建築力」の関連事業として、建築家の藤本壮介、曾我部昌史両氏によるサロン・トークを行いました。曾我部さんは本年手がけられた下条万代島、別府のアートプロジェクト、藤本さんはモクバン、みんなの家、HouseNAを紹介され、その巧みな語り口に、満員のお客様さまも満足の様子で、たいへん熱気あふれる会となりました。(A・S)



【参加人数150人】

Yatai&未来龍熊本大凧
出張ワークショップ@河原町

2012.9.9



河原町アートの日に出張開店してきました。天気にも恵まれ、河原町には色々なお店が並び、とても賑やかでした。そんな中、河原町の一角に、栗林隆さんデザイン・制作のYataiを広げ、遠藤一郎さんの「未来龍大空凧」の凧に夢を描いていただきました。暑い時間帯にも関わらず、ご家族やご夫婦で参加していただき、子どもから大人まで、たくさんのお夢や願いができました。出来上がった凧を一つ一つYataiにはりつけていくと、オレンジ色の鮮やかなYataiになりました。参加者を含め多くの方が、夢が詰まった凧を興味津津で観て下さりました。この日作った凧が連凧に加わり、熊本の高高く上がることが一段と楽しみになる一日でした。(N・Hi)

【参加人数60人】

熊本未来龍大空凧揚げ

2012.10.20

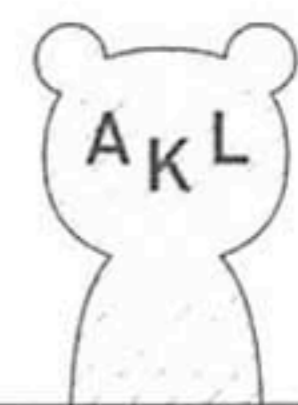
熊本城二の丸公園で、未来美術家・遠藤一郎さんによる「未来龍熊本大空凧」の最終凧揚げを行いました。今回飛ばした凧は、河原町での出張ワークショップや、現代美術館10周年記念のイベントで皆さんに夢や願いを描いていただいたものです。

公園に遊びにきていた方たちも交えて2本の連凧を飛ばしました。青空高く揚がる連凧に、参加者からも大きな歓声があがりました。(N・H)

【参加人数50人】

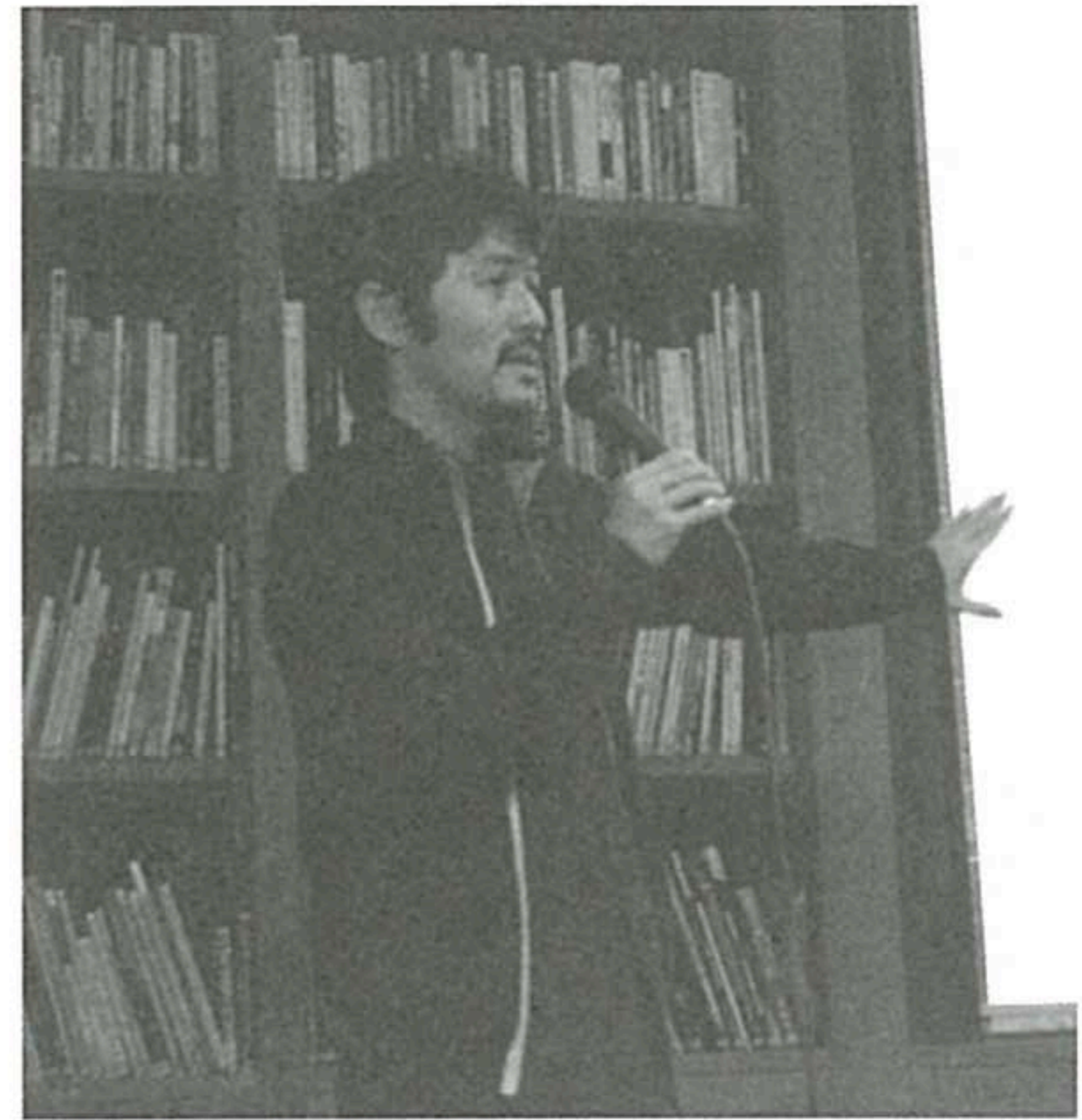


熊本アートパレード、
今年も賑やかでした！



第24回熊本市市民美術展 アートパレード 審査員講評会

2012.12.22



熊本市市民美術展アートパレードの審査員を務めた山口晃さんによる講評会が開催されました。受賞作のスライドを観ながら身振り手振りを交えた講評とユーモアあふれるお話に、会場は終始和やかな雰囲気でした。質疑応答の時間では受賞者から「なぜ私の作品を？」といった質問もあり、アートパレードならではの光景も見られました。(E・Z)

【参加人数70人】

山口晃ワークショップ 年忘れ お絵描き道場

2012.12.22

アートパレード審査員の山口晃さんを講師にお迎えし「年忘れ お絵描き道場」を実施しました。遠くは県外から、老若男女20名の方にご参加いただき、まずは熊本の美味しいものをつまみつつ、自己紹介。「絵はほとんど経験がなく上手になりたい」と言う年配の方から、「ストレスフルな毎日をアートで発散しにきました」というキャリア

アウーマンの方まで、バラエティに富んだメンバーにご参加いただきました。場もほぐれてきたところで、山口さんに提案いただいた「絵しりとりに」で全員がいつせいにその頭文字のついたものの絵を描きます。その結果は「扉」↓「ランプ」↓「プーターロー」↓「牢屋」↓「ヤマト(より愛をこめて)」↓「手鏡」↓「水戸黄門」。ワークショップの間には山口さんのアドバイスや、華麗な筆さばきも披露され、参加者一同笑いの絶えない、楽しい会となりました。(A・S)

【参加人数20】



Visitor's letter

来館者のみなさんからのメッセージ
アンケートに寄せられた感想(抜粋)を紹介します

「生きる場所」展

・栗林さんの作品に出会えて良かったです。カーテンの間を歩くと、風が起きているのが目に見えて解り、自分が確かに存在している証を感じられ、涙が出そうになりました。(熊本県内・女性・30代)

・多国籍の芸術家の、異なる表現方法の一つの会場で見ることができたのは大変おもしろかった。これだけ違う人たちののに、一貫したテーマを感じる。人類のせまさと地球の広さを感じた。(熊本市・女性・20代)

・個性的で見応えがあった。(熊本市・男性・20代)

第18回熊本市 シルバー文化作品展

2012.12.22-
2013.1.13



熊本アートパレードの同時開催として、第18回熊本市シルバー文化作品展を開催いたしました。結成50年を迎えた熊本市の老人クラブ連合会に所属される皆さんの力作約250点がずらり。年々出品点数が増えていく制作力旺盛な皆さんの作品に、入場者の方々もパワーをいただいているのを感じます。出品者の方々の創意工夫が凝らされた絵画、書、写真、手芸、工芸が展示室いっぱいにならぶ賑やかな展覧会となりました！(A・A)

【執筆者一覧】* 原稿の文末にイニシャル表記

兼城昌山(書道家)(S・K)

本田代志子(熊本市現代美術館主任学芸員)(Y・H)

藏座江美(熊本市現代美術館主任学芸員)(E・Z)

富澤治子(熊本市現代美術館主任学芸員)(H・T)

坂本顕子(熊本市現代美術館主任学芸員)(A・S)

芦田彩葵(熊本市現代美術館学芸員)(A・A)

高橋知江(熊本市現代美術館学芸員)(C・T)

濱川倫子(熊本市現代美術館学芸員)(N・H)

丸吉ゆかり(熊本市現代美術館学芸員)(Y・M)

平原奈津美(熊本市現代美術館学芸員)(N・Hi)

村上由起(熊本市現代美術館総務スタッフ)(Y・Mu)

ART KISS LETTER アート・キッスレター

Vol.60 新春号(2013年1月) 【無料】

発行人: 桜井武

編集: 芦田彩葵 濱川倫子

デザイン: 石井克昌(MOTOSHIKI)

印刷: シモダ印刷

発行: 熊本市現代美術館

860・0845

熊本市中央区上通町2・3

電話 096・278・7500

ファックス 096・359・7892

<http://www.camk.or.jp/>

【次号は春号(3月発行予定)】

ART DE GYAN

アート・どぎゃん。

*熊本弁でアートはどうなの? という意味です

第34回熊本県書道展

熊本県立美術館分館

熊本市中央区千葉城町2-18

TEL 096・351・8411



県内の書家がつくる熊本書法文化振興会(三嶋天鴻会長)の主催する書道展

である。参与、会員、会友、公募など6部門で約250点を展示していた。県展グランプリの最高賞は野口桂舟さんである。行草体の五行の大作となっていた。漢字、かな、調和体など6部門ある中で今年から「自由発想部門」が新設されていた。いわゆる戦後始めて誕生した「墨象作品」といわれる部門で「観る」書である。発泡スチロールの立方体の墨象作品は、ユニークで熊本では初

2012.9.4-9.9

第40回熊本県書道連盟展

熊本県立美術館本館

熊本市中央区二の丸2

TEL 096・352・2111



第40回記念展は県文化協会との共催で、毎年開催される書道連盟展(平方研水理事長)である。連盟会員

295名が出品していた。漢字、かな、近代詩文、大字書、篆刻、墨象の6部門である。今回は墨象作品の出品が多く、ダイナミックで活力があったのが目立った。会場は伸びやかで元気のある作品が多く見られた。選抜会員の40回記念賞は石川汀香さん(熊本市)の「かな作品」でした。潤渇の変化もあり、用筆のうまさに構成もうまくまとめていた。この作品展の一部は、人吉市、天草市、八代市、荒尾市、水俣市の5会場に巡回展が開催される。(S・K)

2012.9.25-30

第35回尚絅大学書道展

熊本県立美術館分館



尚絅大学書道コースの教職員と在学生・卒業生の104人の書の展示である。漢字・

2012.12.4-9

「霧の街人吉 球磨山口啓三写真展」

画廊喫茶三点鐘

熊本市中央区手取本町3-8

TEL 096・326・3040

人吉出身の山口氏は、数年前に故郷に移り住み、人吉・球磨地方の霧の風景に魅了され写真を撮り始めたそうである。写真は我流で始めたそうだが、霧と光を活かした構図が美しく、絵画のような作品が並んでいた。霧が立ち込める人吉・球磨地方の冬の風景を紹介し、冬の観光につなげたいという作者の想いと作品の魅力が合致した写真展であった。(N・H)

2012.12.12-27

第3回彩美道場展(油彩)

熊本県立美術館分館



渡鹿の鹿乃家」という広い集い場で活動されている、「彩美道場」の教室生による展示会。月3回活動

2012.12.18-24

されている「彩美道場」では、皆で同じモチーフを囲んで描くのではなく、各自好きなものを描いているのだ。今回、静物や人物画などの油彩画、27点が展示されていた。「自分の持ち味を発揮すべし」と主宰指導者の東さんが語るように、作品の一つ一つがとても生き生きと感ぜられた。(Y・M)

編集後記

お陰さまでCAMKも2012年で10歳になりました。2012年は美術館がある上通出身の葉さんの個展、九州各県の作家を取り上げたグループ展、熊本の自然や人々が登場する栗林さんの新作制作、市民の皆さんが思い思いの作品を出品するアートパレードといった地域に密着した内容から、日本代表する写真家・篠山紀信の公立美術館での初個展、「生きる場所」をテーマに世界の多様な表現を紹介する国際展まで、多彩なラインナップでお送りいたしました。他にも10周年記念イベントやシンポジウムで多くの方々にご協力いただき、そして大切な出会いがありました。思い出深いのは、美術館の活動をずっと温かくサポートしてくださった美術館ボランティアCANKEES(キャンキース)の皆さんと一緒に企画したCANKEES祭。子供から大人まで参加いただいた本当に楽しいお祭りとなりました。

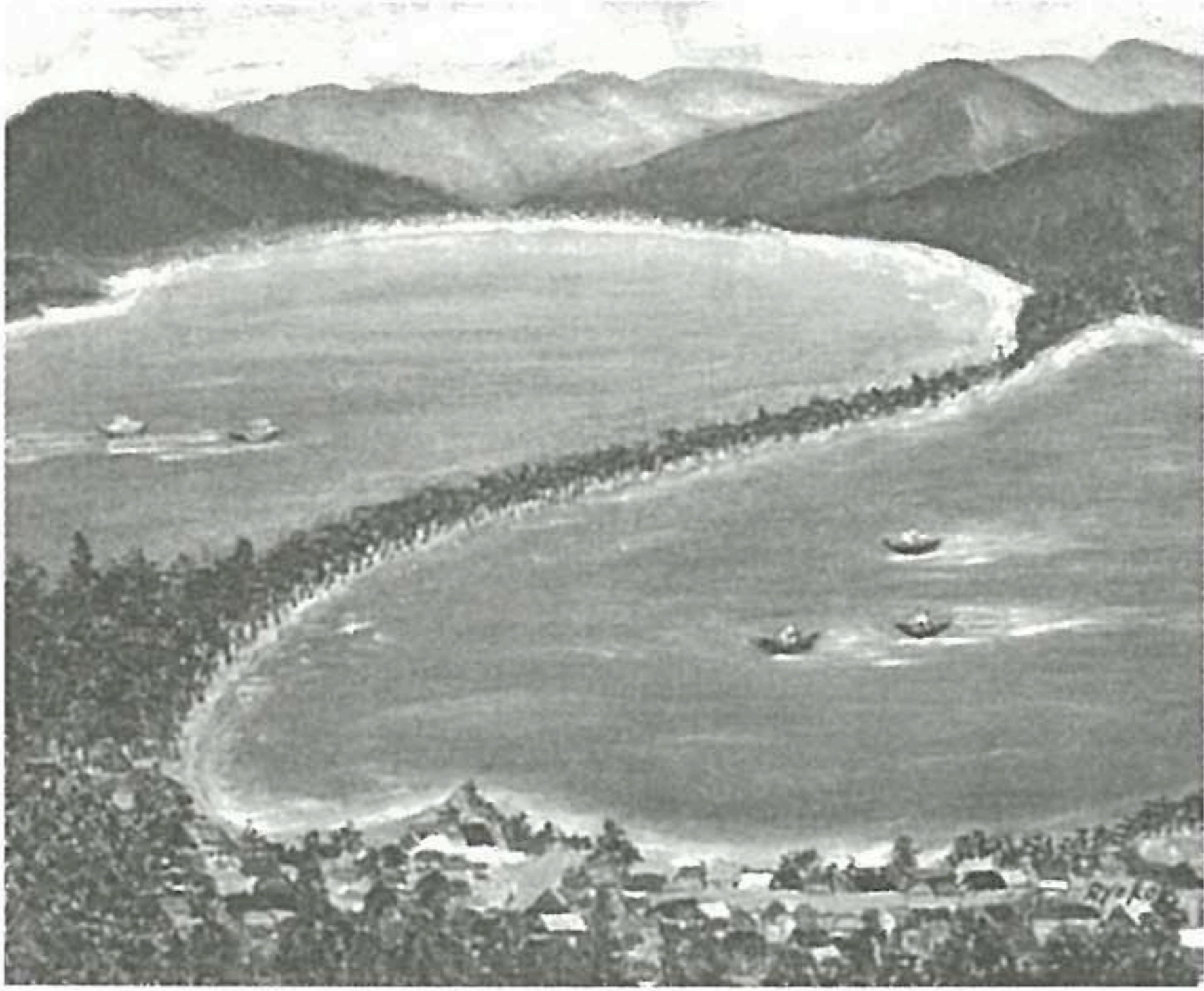
また、皆さんお気づきだと思いますが、このAKLも2012年度から新バージョンとなりました。2013年もAKLでCAMKの充実した活動をお伝えさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願いいたします!(A・A)

先日閉幕した「生きる場所」展の撤収作業の一部を担当ボランティアの皆さんも交えて行いました。一日がかりでしたが、予定していた作業時間を繰り上げて終了するほどテキパキと作業が進みました。幅広い年齢層の方々が個の活動でもチームワークでも手際よく行動される姿にいつも脱帽しています。10周年を迎えたCAMKですが、ボランティアの皆さんに支えられて活動していると改めて感じました。(N・H)



KUMAMOTO ART PARADE

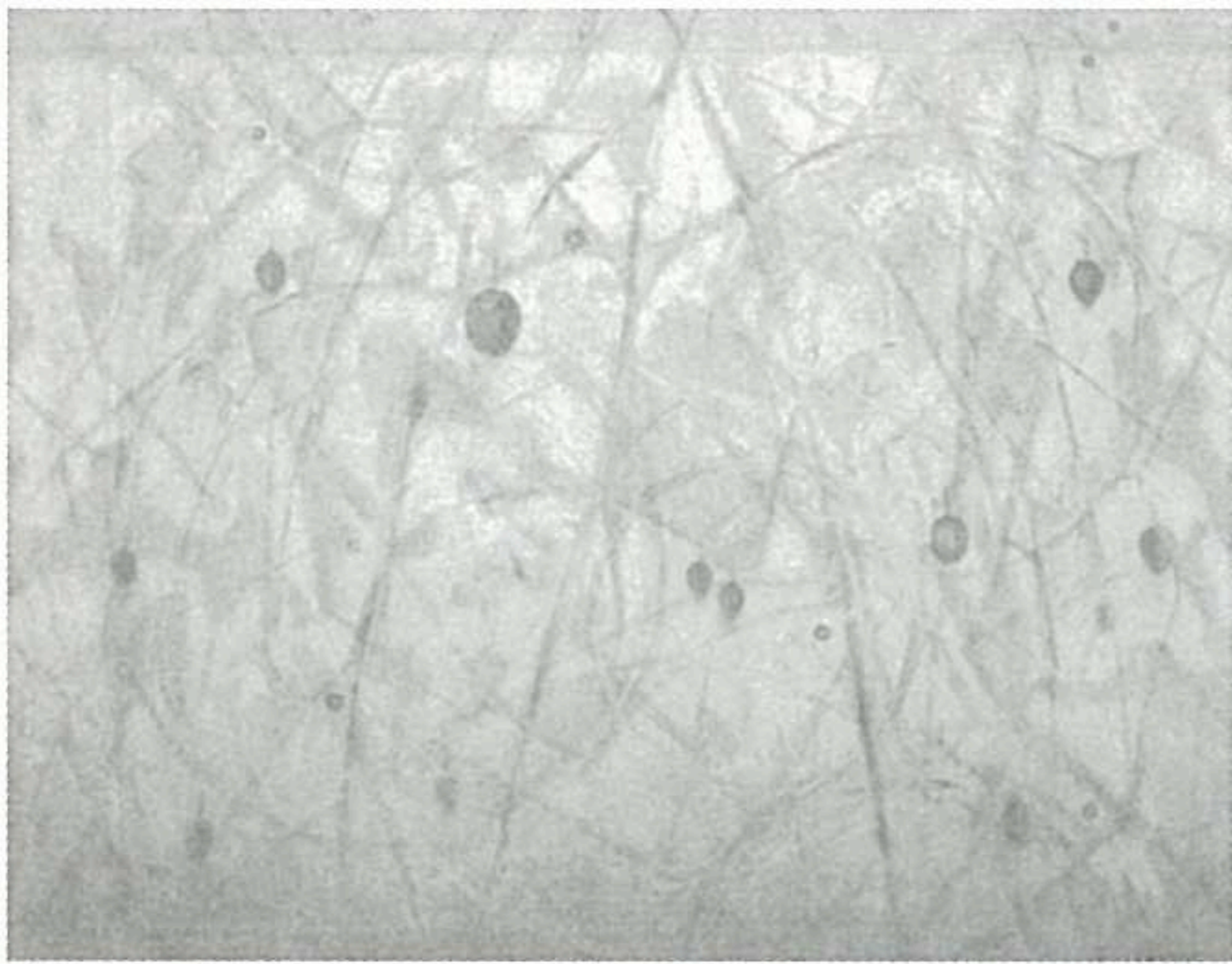
優 秀 賞



故郷 作/四宮涼子
[部門/洋画]



静物 作/井手田陽一
[部門/洋画]



「気づきの壁」 作/福島房雄
[部門/洋画]



Quiet Joy (静かな喜び) 作/松村智子
[部門/その他]

《故郷》は、手前の家々の絵の具の生々しさと、色を抑えた山の緑、海の青とが互いを引き立てあっていて、とてもきれいです。

《静物》は、画面がしっかり構成されていて、離れて観た時にとても強く見えます。隣り合う色も考えて置かれていますね。家に置いておいて飾るのに良い絵ではないでしょうか。

《Quiet Joy (静かな喜び)》は、センスの良さだけで構成されたような作品です。色数が少なくても透過性がしっかりしています。

《気づきの壁》は、画面の分割とか、淡い色調の中にも広がる奥行きがあり、身近に置いて見ている、ささやく様に日々寄り添ってくれる印象を持ちました。

《おかしな国》は、画面を目で追ってゆくと、一番奥にあると思っていたものが、突如一番手前に画空間を侵食してとび出してくる。意欲的でおもしろかったですね。

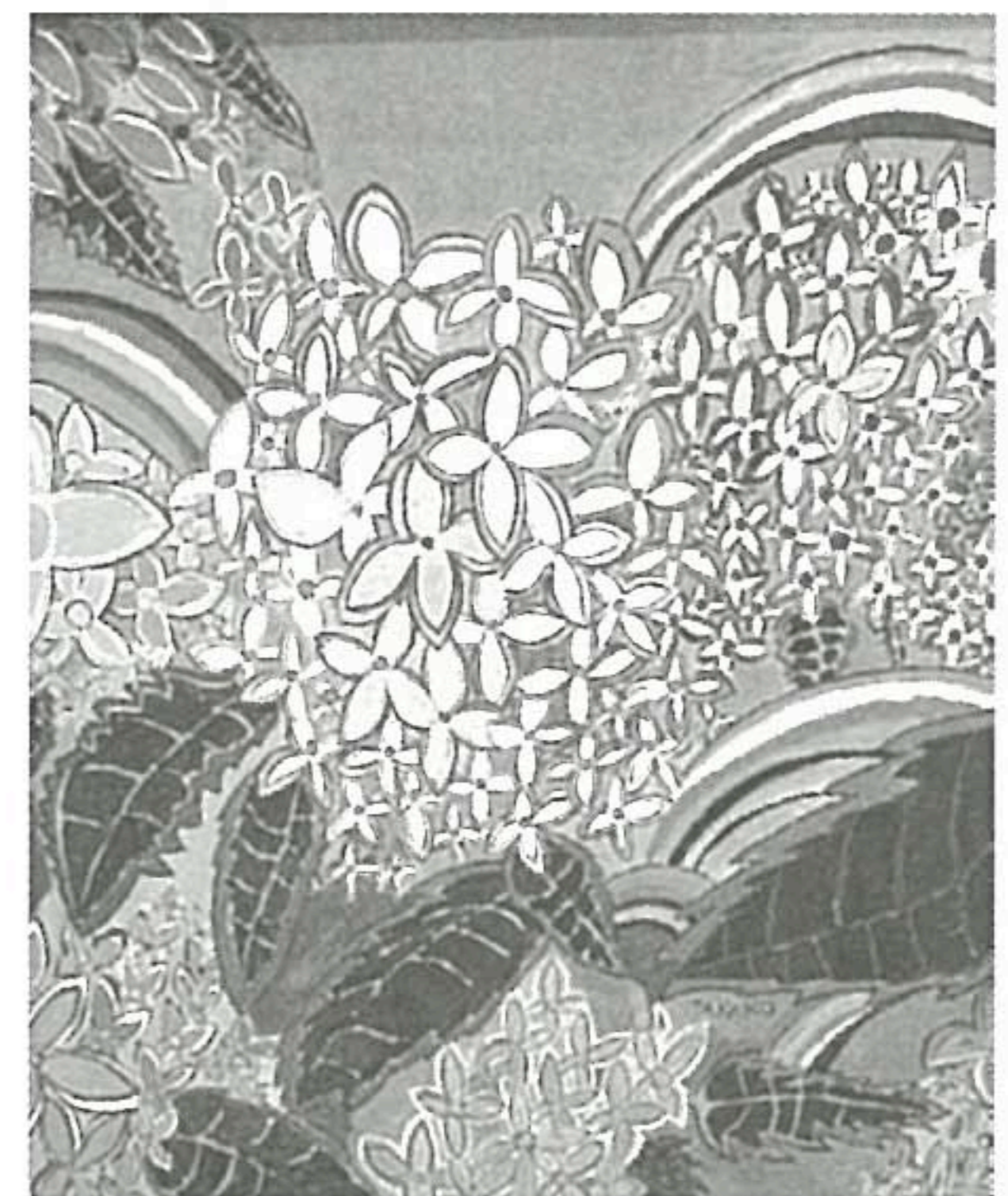


おかしな国
作/福島真依
[部門/デザイン]

コラボレーターの会 特別賞

画面が明るく、虹が散りばめられていて、心象的な絵ですね。観る人を楽しませる作品です。(コラボレーターの会)

アジサイと虹 作/永田貴子
[部門/洋画]



ごあいさつ

熊本市長 幸山 政史



「熊本市民美術展 熊本アートパレード」は、市民の皆様と共に創り、共に楽しむ「手作りの美術展」として、今回で第24回目を迎えます。平成元年の第1回開催から今回まで、合計9985点の出品をいただいております。開催20年以上に亘る本展への温かい皆様のご支援に、心から感謝申し上げます。

今回は、「欲しくなる作品」というテーマの下に、芸術を愛する幅広い年齢層の皆様から316点もの力作をご応募いただいたっており、作品に込められた作者の想いが直に伝わってくる展覧会となっております。ご来場の皆様には、市民美術の競演をごゆっくりとお楽しみいただきたいと存じます。

さて、本市は、平成24年4月に政令指定都市として新たな一歩を踏み出しました。今後も、熊本が持つ豊かな自然や伝統ある歴史、多様な都市文化などの魅力に更に磨きをかけるとともに、その魅力を広く国内外へアピールすることで、文化やまちづくりをはじめ様々な意味で「選ばれる都市」を目指してまいりますので、皆様の更なるご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、本展の開催にあたりまして、ご出品いただきました市民の皆様、審査員をお務めいただきました山口晃様、企画・運営にご協力いただきました「コラボレーターの会」及び「熊本市老人クラブ連合会」の皆様をはじめ、関係者の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、この市民美術展を通して市民の皆様との文化芸術活動がますます活発なものとなり、相互の交流が一層深まりますことを心から祈念申し上げます。ご挨拶いたします。

KUMAMOTO ART PARADE

奨励賞

《Flying Images》は、墨のニュアンスが好きなので選びました。全然マッチしていないビビッドな色が効いていますね。

《彩雲》は、テクスチャーがいろいろあって観ていておもしろいです。胸の深い部分に届くような質感が重なり合い、言葉になる以前の感覚のみで構成されているような気がしました。

《樹》は、幹の走らせ方など雰囲気がありますね。しっかり描かれている安心感があります。

《魅惑のステップ》は、ヴィジュアルとタイトルにヤラれました。合わせ技ですね。背景は弱いですがしっかり描こうという意識が感じられました。

《挫折の欠片》は、その日次第で書き込まれた台詞が違って読めるような気がしました。部屋に長く飾っておけますよね。

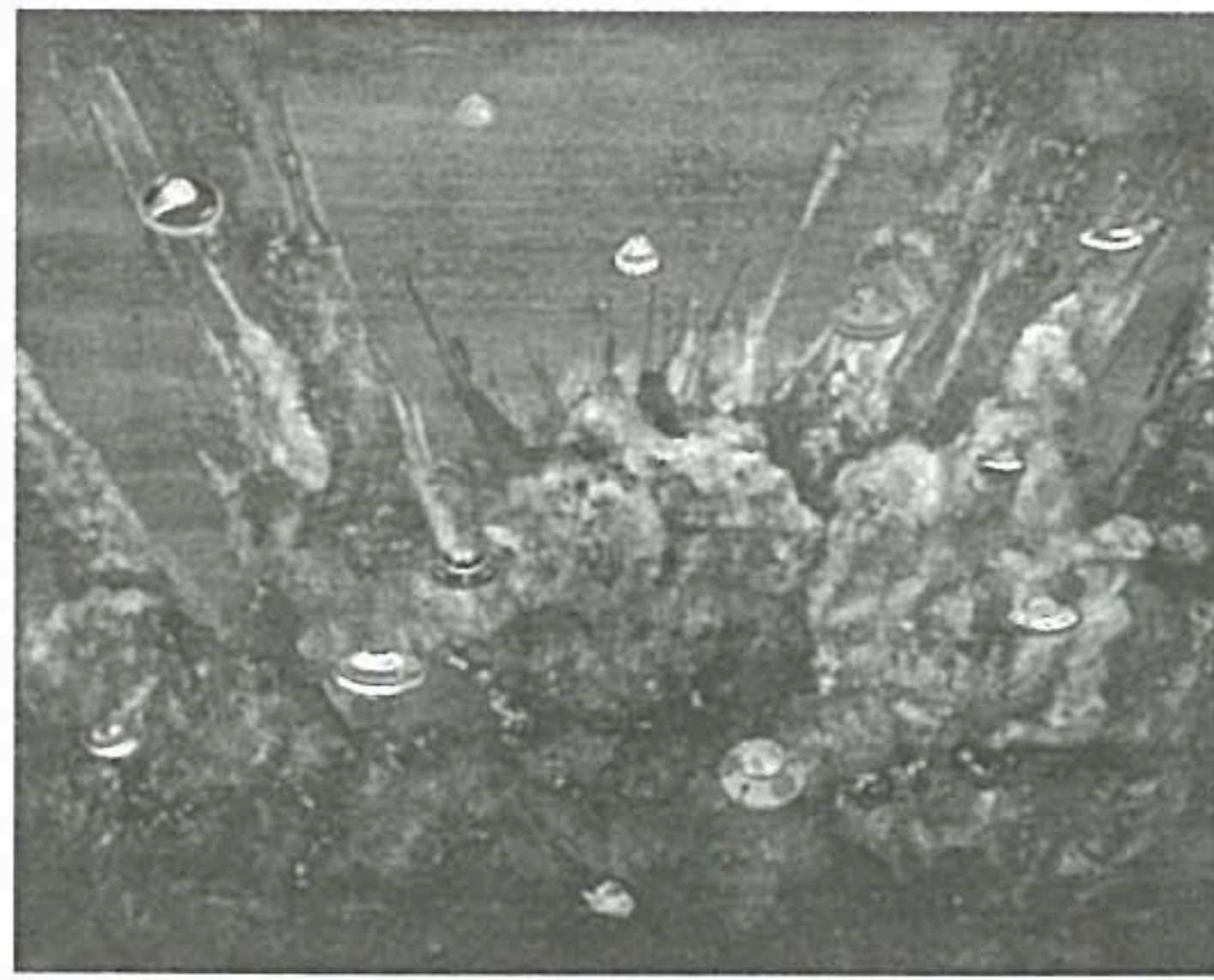
《MUSIC・MAKING》は、手前にある音符の線が効いていて、単純な割には空間ができています。

《シルバーワールド》は、技術が追いついていないのですが、自分の中にあるイメージを精一杯追いかけている前のめりな感じに好感が持てました。

《君が笑えば》は、構図の決まり方が浮世絵みたいで良いです。

《飛翔》は、完全に画面が2つに分かれているのですが、左端のアンテナで同じ場面だと気づかせる、一筋縄ではいかない空間に驚かされました。

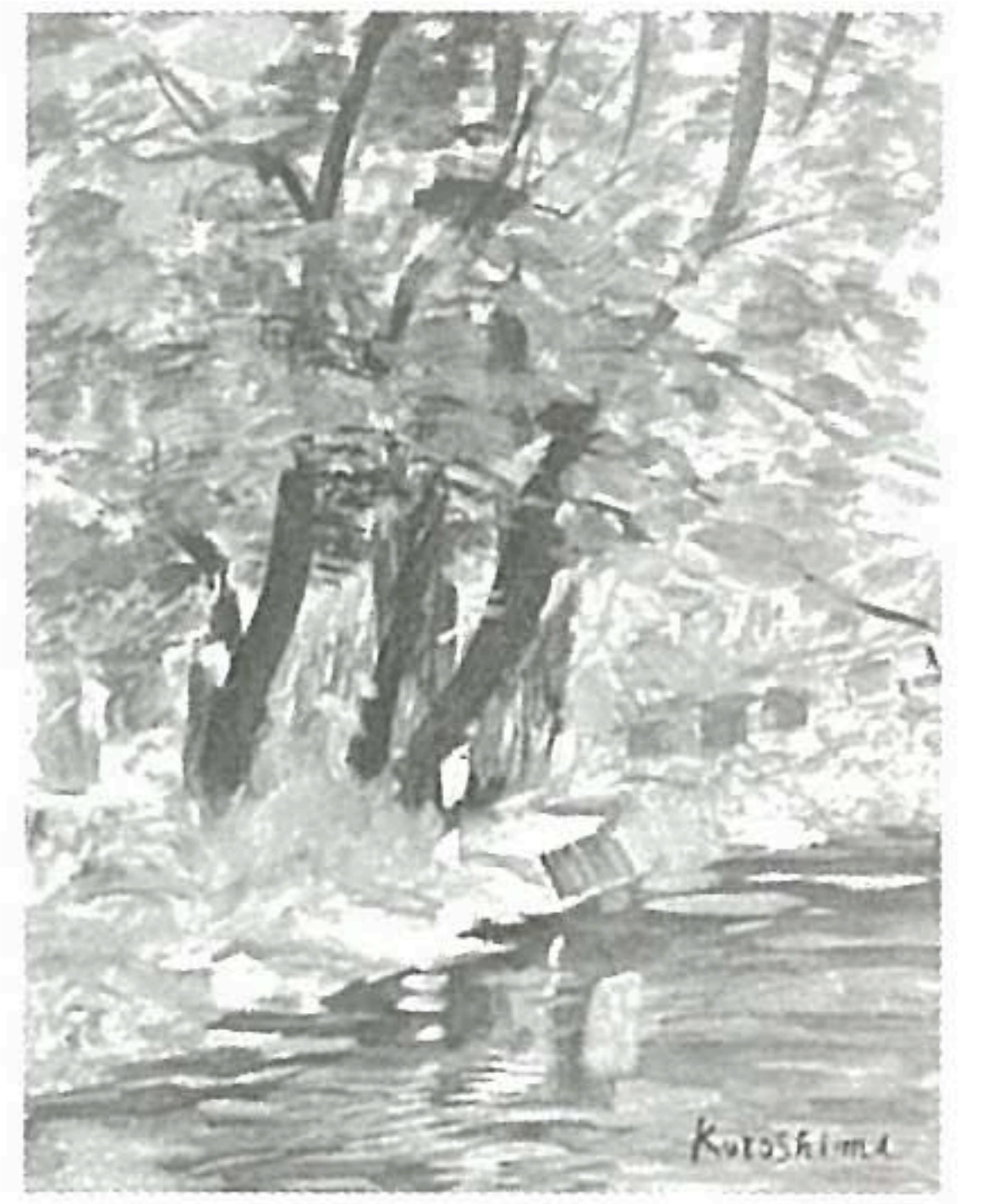
《かごめ かごめ》これはまず、構成を練ったところから作りきったところがえらいですね。ロボットものの影響がありつつもそこから逸脱しているところに惹かれました。



Flying Images 作/武田竜真
[部門/洋画]



彩雲 作/中島浩二
[部門/立体]



樹 作/黒島敬子
[部門/洋画]

今年から
オーディエンス賞が
スタート!

ご投票いただき
ありがとうございました。

オーディエンス賞

投票期間 12/22-28
総投票数 295 票

魅惑のステップ

作/山内聡子

[部門/洋画]



挫折の欠片 作/橋本津代美

[部門/その他]



MUSIC・MAKING

作/野辺聡子

[部門/デザイン]



シルバーワールド 作/西川陽加里

[部門/洋画]



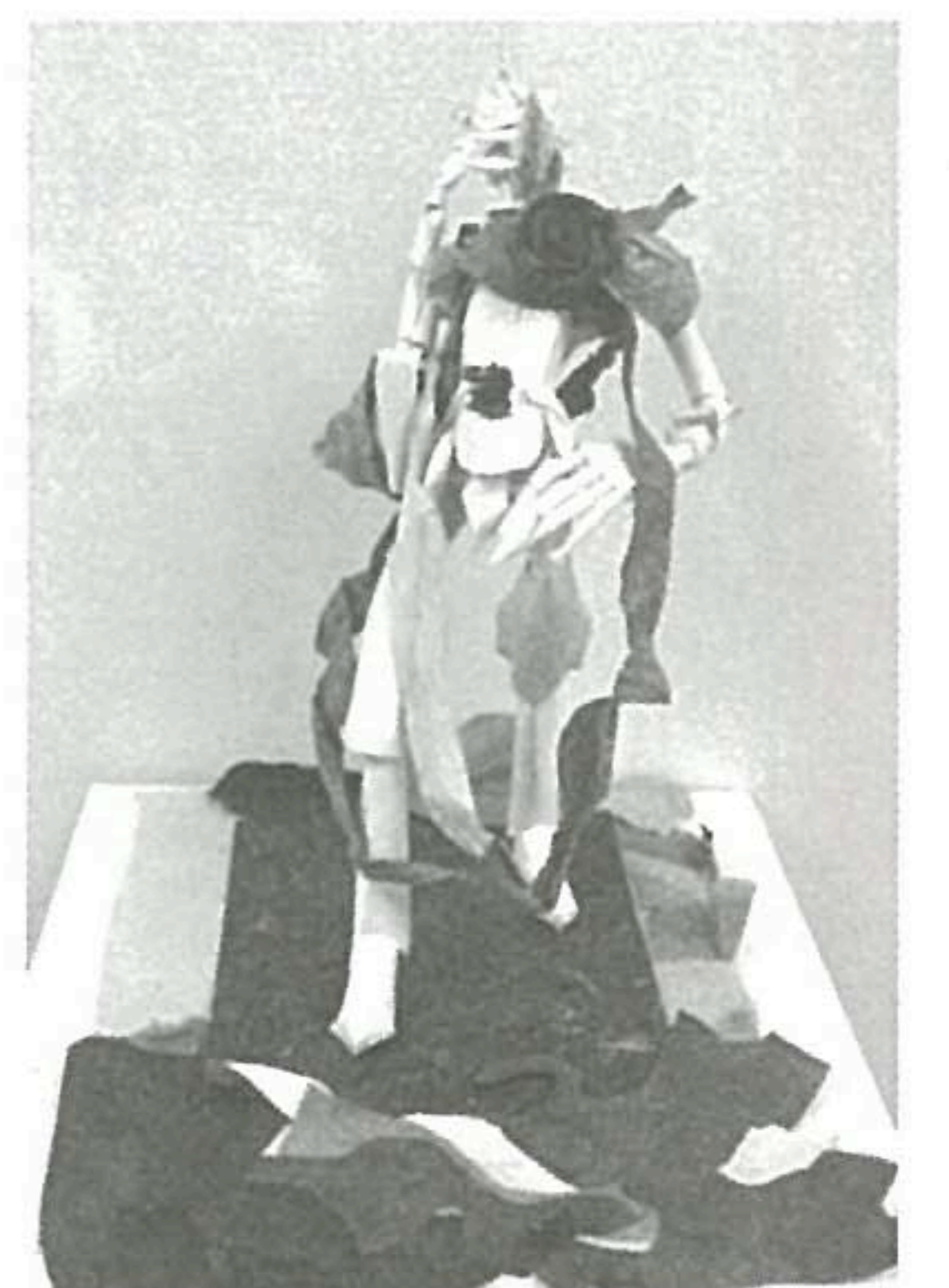
君が笑えば 作/矢山眞理子

[部門/洋画]



飛翔 作/村上誠

[部門/写真]



かごめ かごめ

作/鈴木智也

[部門/立体]

KUMAMOTO ART PARADE

第24回熊本市市民美術展 熊本アートパレード

会期：平成24年12月22日(土)～
平成25年1月13日(日)

主催：熊本市、熊本市美術文化振興財団
協力：コラボレーターの会

審査員
山口晃



テーマ：欲しくなる作品

総出品数
316点

今回のテーマは「欲しくなる作品」と致しました。作りたい作品と欲しくなる作品とは違いますが、「誰が」どのよう「に」欲しくなるのかを含める事で、制作した後、にまで作品の射程を伸ばすことを考えていただけたらと思います。

たくさんの方々の作品に触れることで、みなさんの可能性も感じることができました。最終的には、自分の作品が欲しい作品になるといいと思いますが、これからは「作る」と同時に「観ること」も楽しんでいただけたら幸いです。

アートパレード大賞 (熊本市賞)

講評／山口晃

アートパレード大賞は《sign(get my style)》です。まず、勢いが好いです。隕石なのか岩なのかぎりぎりわからない感じがいいですね。青もすごくきれいです。「作る」と「壊れる」が画面の中でいくつも複雑に絡み合っている部分にエネルギーを感じました。



Sign (get my style) 作／Chiaki
[部門/洋画]

井手宣通賞の《村里の春》は、遠くから観ると、蕪村の絵にも通じるような春景色のやわらかさを感じますね。渋いながらも変化のある色で必要なところを押さえていて、余計なことをしていないところに好感が持てました。

井手宣通賞



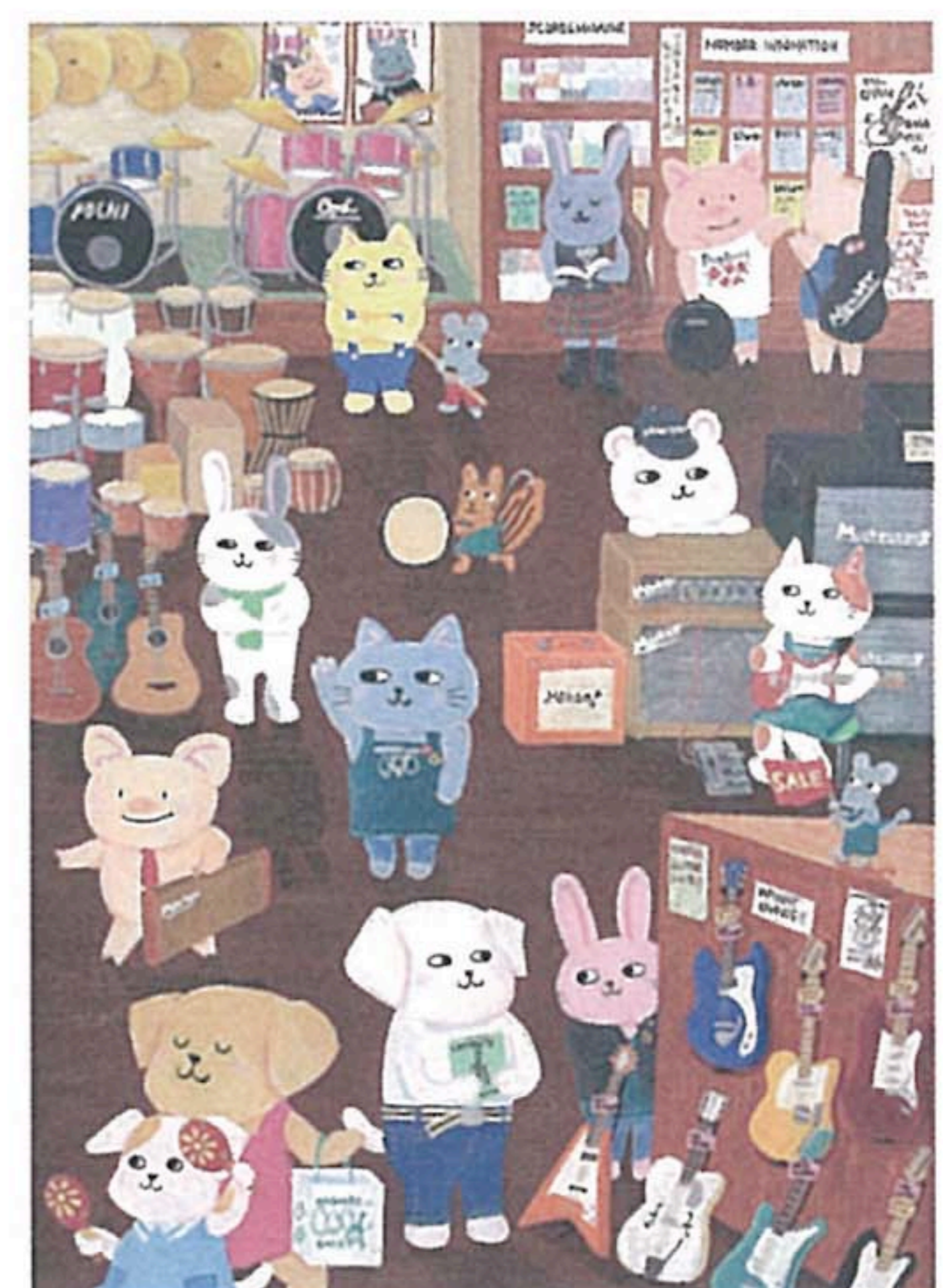
村里の春 作／松元スミカ
[部門/洋画]

熊本市現代美術館賞



「ありがとう!!」作／清島桜穂子
[部門/デザイン]

審査員特別賞(山口晃賞)



いいなあ。ほしいなあ。作／長田麻美
[部門/その他]

熊本市現代美術館賞の《ありがとう!!》は、遠くから観た時は強くて、寄れば寄るほどほだけていく感じが、身近にあるときには気づかなかつたけれども、遠くに離れてみると自分の中の存在感の大きさを感じるというところにつながるような気がしました。

山口晃賞の《いいなあ。ほしいなあ。》は、私の趣味です。このネコちゃんのおかげでこの審査を乗り切ることができたように思います。ありがとうございます。